

# 8 ユニセフ講演会の 取り組みを通して

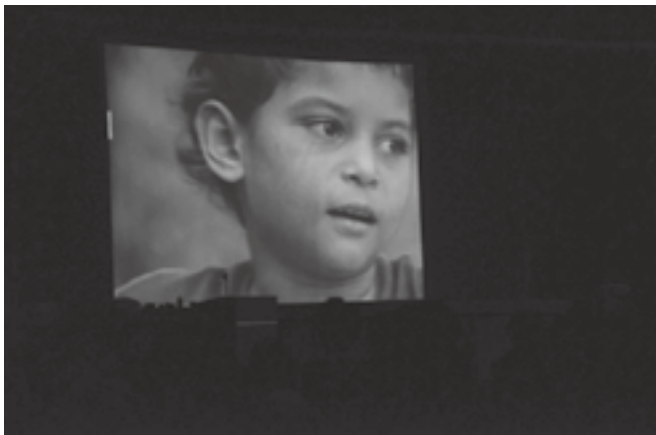
報告者 東京都立世田谷総合高等学校 研究部 浦 利郎 先生

本校では、2年次の総合的な学習の時間において、大きな柱として次の3つを掲げている。1つ目がキャリア教育で、進路研究、次年度の課題研究のテーマ決めを行っている。2つ目が国際理解で、世界の各国の状況、国際協力についてテーマを決めて講演体験を実施している。3つ目が奉仕で、コーディネーターの方の協力のもと、奉仕体験活動等を行っている。この国際理解の一環として、本校では1期生の2年次以来4年連続、ユニセフ講演会を実施している。今年度から担当が進路部から新設された研究部に移り、奉仕の実施時期が昨年度の年度の前半から年度中間になったこともあり、昨年度までは2学期後半に実施していたユニセフ講演会が1学期の初めの4月20日実施になった。

当日は5時限の開始時刻13時15分に本校第一体育館に2年次生全員（6クラス）が集合した。全



ユニセフ手帳



ビデオの上映

がめをリレーで運び、子どもにとっていかに大変な仕事であるかを実感した。さらに、蚊に刺されることが原因での子どもの死亡率を下げることに関連して、各クラス1名の代表（計6名）による蚊よけの蚊帳（かや）を張り、1人が中に入る体験をした。最後に、内戦などで設置された地雷によって子どもが犠牲になっていること、地雷の撤去費用は設置費用の何倍もかかることなど地雷のレプリカの提示を交えてお話をいただいた。このあと、生徒は自分のHR教室にもどり、ワークシートの記入に取り組

員にユニセフ手帳が配布された。講師をつとめていただく日本ユニセフ協会の松本先生の紹介のあと、ユニセフ活動紹介ビデオ約15分間上映した。次に松本先生の講演では、“幼児死亡率を下げるために、子どもが学校教育を受けられるようになるために、あなたでできることを考えてください”。などのお話をいただいた。子どもが水を運ぶことが一家の大切な仕事となっているために学校に行くことができないという状況があることに関連して、体験として各クラス2名の代表（計12名）が約15kgの水



松本先生と講演を聞く生徒



水がめを運ぶ

ごいと思った。”などがあり、小さな子どもにとって重労働であることを実感している。同じワークシート中「Ⅱ講演を聞いての感想、考えたこと」の記述例としては、“私たちは、募金をするしかできない。でも募金でなにかかわることができるのであったら、よろこんで参加させていただきたいと思う。”や“世界にいる子どもたちが1日でも長く生きていけるように自分にできることから始めていこうと思いました。”など、ユニセフ募金など自分にできることをやり始めたいという内容が多く見

んだ。

ワークシートは2種類で、1つはユニセフ手帳に答えがある穴埋め式のもの、2つめが講演会の内容および感想を記述するものとした。2つめのワークシート中「Ⅰ（3）水がめ体験学習について」の記述例として、“男はわりと軽々もっていたけど、女はきびしそうな人もいた。……これを現地で実際に運んでいるのはもっと小さい子ども。すごくすごく大変なことなのだと実感した”や“15kgの水がめを自分より小さい子が毎日こんでいるのはす



蚊帳を張る

られた。

今回の講演会で、生徒は、ユニセフが、何のために、どのような活動をしているのか理解でき、自分で今協力できることを考えることになったと思われる。次年度以降も、国際理解の一環として、ユニセフ講演会を続けていきたい。



地雷のレプリカ